

【都市と美術研究所】2022年12月6日（火）研究会 発表要旨

## 公立美術館としての愛知県美術館の役割—コレクションの形成と今後の展望

Roles and Responsibilities of the Aichi Prefectural Museum of Art as a Public Museum

由良 濯(愛知県美術館学芸員)

Yura Aro

Curator of Aichi Prefectural Museum of Art

---

愛知県美術館は、名古屋市を代表する繁華街、商業施設、都市型公園が集約する栄に位置する。第二次世界大戦時、大規模な空襲の被害を受けた名古屋市では、戦後復興の機運が高まり、1955年に愛知県文化会館美術館が設立された。そして1992年、文化会館の後継として、より大きな展示空間を持つ愛知県美術館と劇場を備えた総合文化施設である愛知芸術文化センターが建設された。

新たな美術館として開館した愛知県美術館では、「20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品」「現在を刻印するにふさわしい作品」「愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品」「上記の作品・作家を理解する上で役立つ資料」の四つの収集方針に基づき、コレクションが作られてきた。ここに大きな変化をもたらしたのが、愛知県の一大コレクターである木村定三氏の蒐集品である。熊谷守一のパトロンでもあった木村氏のコレクションは、近代洋画だけでなく、重要文化財を含む日本近世の絵画作品やそれ以前の仏像や仏具、茶碗、考古遺物など多岐にわたる。そして、2010年に始まった三年に一度の現代アートの祭典「あいちトリエンナーレ」は、「国際芸術祭あいち」と名称を変更して現在も続いている。

これら幅広いジャンルをカバーする現在の愛知県美術館は、愛知県内において今後どのような役割を担っていくのだろうか。全国の様々な美術館博物館では、年に一度はメディア主催の既に知名度のある作家や海外美術館展、さらにはアニメやキャラクターの展覧会が開催されている。こうしたブロックバスター展との関わり方、愛知県美術館が果たすべき課題とは何か検討していく。

### 略歴

1993年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。2018年より現職。専門は、日本近世絵画史。主な論文に、「海北家襲蔵粉本史料の研究—旧龍安寺方丈障壁画模本を中心に」（『美術史研究』第55号、早稲田大学美術史学会、2017年、pp.59-69）など。特別展『曾我蕭白』（愛知県美術館、2021年）を企画。